

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873800373
法人名	有限会社清水商事
事業所名	グループホーム宇和ひまわり
所在地	西予市宇和町坂戸336-1
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者本位でしたい事をしてもらい、笑顔で過ごせるような対応に努めている。自然豊かな環境で静かでゆったりと過ごせる。散歩では季節を感じ楽しむ事ができる。買い物や外出を多く取り入れ利用者に喜んでもらえるよう支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>宇和ののどかな田園地帯にある開設11年目を迎えた事業所である。開設当初から勤務する職員や勤務歴の長い職員が多く定着している。平屋建てでユニット間も気軽に行き来することができるため、利用者同士の交流もある。利用者の高齢化や重度化も年々見られるが、毎日笑顔ある生活を送ってもらいたいと、趣味の編み物や絵画を続けられるように支援したり、利用者の使用するコップなどの食器類は一緒に店に行き利用者を選んでもらうなど、普段から利用者の思いや自己決定を大切にしている。職員は利用者一人ひとりに合わせて利用者主体のケアを行っており、利用者は安心した穏やかな表情で過ごされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム宇和ひまわり

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)

氏名 土居 ひとみ

評価完了日 25 年 10 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑顔ある生活」と理念や指針を目につくように貼り付け意識付けをし、笑って生活できるよう係わりをもちコミュニケーションを図っている。	
			(外部評価) 「笑顔ある生活」を利用者に送ってもらえるようにという理念は、職員全員で話し合い作成している。管理者は利用者に笑顔ある生活を送ってもらうにはどうすればよいかを日頃から職員に伝え、職員一人ひとりが考え実践につながるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方への挨拶や声かけをしている。地域の行事の参加や、保育園、婦人会の方の来訪も定期的であり、交流をしている。	
			(外部評価) 地域の夏祭りや文化祭に参加したり、散歩時に職員から地域住民にあいさつや声かけをするなど地域と積極的に関わっている。毎月、地域の保育園児やボランティアが事業所に来て利用者と交流を深めている。事業所前の道路は通学路になっており、リビングからは登下校の子供たちを見守ることができ、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 外出やボランティアの受け入れなどを通じ、理解してもらうよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の会議で参加者との意見を参考にしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、市担当者、老人クラブ会長、市議会議員、他のグループホームの職員、代表者等の参加を得て開催している。会議では事業所の取組みや課題等を話し合っている。また、駐在所から災害時の注意点や対策の話に来てもらう工夫もしており、事業所としての課題など意見交換を行い災害対策に活かしている。</p>	会議を避難訓練や行事と一緒に開催する工夫をし活発に意見交換が行われているが、より一層地域に密着した情報交換が行えるように、地域包括支援センターへの働きかけを継続して行い、少しずつでも関わりが持てるような取組みを期待したい。また、地域住民と一緒に避難訓練や災害時について話し合うなど、地域との災害時の協力体制が強化できるように運営推進会議を活用していくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議に参加してもらい、意見や資料などの提供をしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議の出席のほかにも、日頃から事業所の相談をしたり、研修案内をもらう参加するなど連携を図りながら良好な協力関係を築いている。地域包括支援センターと関わりが持てるように運営推進会議の参加を依頼するなど、事業所から働きかけを行っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 職員会議で話し合いをし、言葉使いなど声かけに注意し心がけていくようにしている。玄関は開いたら音がでるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 玄関は夜間のみ施錠し、日中は開放している。職員は利用者の行動を見守りながら不穏状態が見られる利用者にはさりげなく寄り添い、自由で安全な暮らしを支援している。身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、安全面から家族の希望でベッド柵を使用することもあり、話し合いを重ねた上で慎重に対応し、経過観察を行いながら常態化しないように努めている。また、言葉での拘束も職員同士で注意し合い、利用者の立場に立った声かけや対応するように心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月1回の会議や研修の報告などを行い、職員がそれぞれ注意し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修の参加、報告をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明をし、不安や疑問点を尋ね、理解や納得ができるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた時に意見が言いやすいよう近況報告やケアプランの説明などし、意見を求めている。 (外部評価) 家族の訪問時には職員から声をかけ、意見や要望を言いやすいように配慮している。遠方の家族には毎月手紙で利用者の様子を伝えたり、電話連絡をしている。年に2回家族会を実施しており、家族との意見交換や家族間の交流の場となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にリーダー会議を行ったり、月1回の会議で相談したり意見を聞くようにしている。	
			(外部評価) 管理者は日頃から職員と一緒に働いているため、職員は意見や要望を伝えやすい環境にある。管理者とユニットリーダーは職員にとって働きやすい職場となるように、細やかに職員の声を聞くように努めている。代表者は運営推進会議の参加するなど、事業所に来て管理者と話す機会もあり、管理者は職員の意見なども伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者に報告している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の参加を促す。会議で研修報告を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設からの運営推進会議の参加や行事に参加させてもらって交流をし、質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に家族・本人に希望を聞いている。声かけに工夫しながら、話をよく聞き、関係づくりをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 状況を把握し、家族の要望に応えられるように努めている。日頃より不安感を与えないようコミュニケーションを図っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族・本人と充分話しをし対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来ることをしてもらい、出来るだけ係わりを持ちながらコミュニケーションをとり支えながら生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月手紙で近況を知らせたり、連絡をとって報告したりしている。家族会などで話を聞くようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の家族・知人など、いつでも面会に来ていただけるよう心がけ、利用者が電話したい時は利用できるよう支援している。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、家族の協力を得て馴染みの美容室やお墓参りに出かけている。昔からの知人の訪問もあり職員は事業所に訪れやすいように対応にも配慮し、馴染みの人間関係が途切れることなく継続できるように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一緒に出来る体操やボール遊びなどのレクリエーションで楽しんでもらえるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約後も相談などあれば対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人や家族との係わりの中で意向や希望を聞くように努めている。生活歴などの情報は用紙に記入し、引継ぎをし会議で話し合いをしている。	
			(外部評価) 日頃から利用者との会話を大切にし、「どのような暮らしをしたいか」を考え、生活歴や意向を確認し支援している。毎日の習慣や好きな音楽など利用者一人ひとりの人物像を把握するように取り組んでおり、知り得た情報はシートに記録して職員間で共有し、順次追加をしている。思いや意向を表わしにくい利用者には、家族からの情報や表情や動作からくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族から聞き取りを行うことで生活歴などの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェックを毎日行っている。自分のできる事や好きな事をしてもらうようにしている。本人が興味をもったものを声かけしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画に関して、本人・家族など意見を求めている。月に1回職員会で話し合い、現状に則して介護計画の作成に努めている。見直しも行っている。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員が原案を作成し、計画作成担当者と管理者が確認している。利用者や家族の意見と担当者会議での意見を反映し、利用者主体の介護計画になるように努めている。毎月職員で話し合いモニタリングを行い、評価や見直しをしている。また、利用者の現状に合った介護計画になっているか確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践や気づきなど個別に記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に応じて、必要とされるニーズを把握しサービスできるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 避難訓練、地域の行事参加、保育園児との交流やボランティアの方に来てもらい、その人にあった地域資源ができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望を聞いて、納得できる医療をうけられる ように支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することがで き、継続している利用者が多い。職員が受診介助を行い、 受診内容は家族に詳しく報告し、安心につながっている。 また、職員は普段の利用者の状態を把握しており、少しで も異変があった場合は早めに病院受診をするように心がけ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員の気づきなど必要と思われる情報を提供し、適切 な看護を受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は洗濯物など必要物品を届ける。定期的に面会をし 病院関係者との情報交換や相談など良い関係づくりを行 うようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族と話し合い、医師と相談しながら方針を決めて いる。	
			(外部評価) 看取りの方針を入居時に利用者と家族に説明し理解を得て いる。現時点では看取り支援は行っていない。利用者の状 態の変化があった場合には、その都度利用者や家族、医師 と話し合いながら意向を確認し、入院など適切な対応を検 討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修参加・報告を行っている。緊急時のマニュアルを作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署の職員によって避難訓練を行っている。運営推進会議では、共に消防署の指導をうけている。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。訓練では職員数が少ない夜間を想定して実際に利用者の避難誘導を行い、消防署からアドバイスを受けている。利用者の確実な避難方法の課題や反省点を話し合っている。運営推進会議の開催時に地域の駐在所から、地震や火災時の注意点や災害対策の話に来てもらうなど、職員の災害に対する意識を高めている。備蓄品については量や保管場所を検討している。	様々な災害等を想定して避難訓練を重ねているが、夜間など職員だけの避難誘導には限界があるため、地域住民が負担に感じないような具体的な役割の協力を依頼するなど、地域との協力体制を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個別性を重視し、自由にしてもらえるよう対応に努めている。トイレ誘導時など他者に配慮し声かけに注意している。 (外部評価) 日頃から尊厳の気持ちを持って、利用者一人ひとりの人格を尊重したケアを行っている。名前の呼び方も基本は敬称だが、昔からの呼び方での声かけを利用者が望み、コミュニケーションが取れやすい場合は随時家族と相談して対応している。利用者の羞恥心に配慮し、排泄介助時などにはあからさまな声かけはしないように気をつけさりげない対応を心がけている。また、職員は居室に無断で出入りしないよう、利用者に声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の活動意欲を触発するなど馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。本人の意思を聞いて決定してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のしたい事を聞いて提供している。できない所を職員がフォローしながら一緒に行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の意向により一緒に買い物に行き服やスリッパなど購入している。なじみの美容院に行き、毛染めやパーマなど出来るように支援している。衣がえをし季節にあった衣服を着てもらえるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と共に食材切りや盛り付けなどしてもらっている。月に2回お楽しみ献立日をつくり利用者に食べたい物を聞きメニューに取り入れている。	
			(外部評価) 献立は管理者が立て、月2回利用者の食べたい物を聞いて調理している。おせち料理などの季節の献立や、誕生日にはケーキを手作りするなど、利用者が食べることが楽しみになるように工夫をしている。キッチンが食堂に面したオープンキッチンとなっており、調理の下ごしらえや片付けなど利用者は一緒に手伝っている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分チェック表を活用して、少ない時には食間にとってもらうよう工夫している。一人ひとりに合わせて、食べやすい大きさにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声かけをし、チェックしている。義歯がきれいにみがけていない時は後で職員が磨くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し、個人のペースにあわせたトイレ誘導や声かけを行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄の時間やタイミングなどパターンを把握し、その日の状態にも配慮しながらできる限りトイレで排泄できるように取り組んでいる。入居時に紙パンツを使用していた利用者が、排泄パターンに合わせたトイレ誘導をすることで失敗が減り、布パンツになった事例もある。利用者の状態に合わせて、気持ち良くトイレで排泄できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表をつけている。自然排便を促すため牛乳や繊維質の食品を食べてもらうよう心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 無理強いしないような声かけをし誘導する。午前中にも対応する。入浴剤をいれてみるなど工夫する。入浴時、職員との会話を楽しんでもらう。	
			(外部評価) 1日おきを基本として入浴することができ、利用者の希望に応じて毎日入浴することもできる。利用者の重度化が進んでいるが、なるべく湯船に入って温まってもらいたいと考え、シャワーチェアの使用や職員2名体制で介助するなど、安全にゆっくりと入浴できるように支援をしている。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングに配慮し、気持ち良く入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中しんどい時は休息をとってもらったり、朝は無理に起こさず、その人にあわせ起きてもらう。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の確認をしている。医師・薬剤師に注意点など聞き、それを他の職員にも伝え、変化があれば医師に相談し、指示をおおぐようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとり日毎にしたい事など変化するため一つ一つ確認しながら、その人が今なにがしたいのかを理解しながら楽しく笑顔になるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩に行ったり、買い物に行ったりして外に出る機会をつくっている。地域の行事参加をしたり、月1回は外出の日をつくるようにしている。	
			(外部評価) 日頃から近くのスーパーへ買い物や散歩など外出している。月1回は車いすの利用者も全員で外食や花見に公園に出かけるなど外出できるように努めている。体調不良などにより外出できなかった利用者には後日改めて個別での外出支援をしている。また、家族の協力を得て利用者と家族が一緒に外出する行事を開催できるよう検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じ、買い物や受診の際、本人が支払いできるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて電話をかけたり、家族からの電話は本人とかわり話をしてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夏はゴーヤや朝顔を植え緑のカーテンをしたり、冬はこたつを出し、好きな所で過ごしてもらっている。	
			(外部評価) 太陽光が入り明るいリビングにはゆったりとしたソファと畳のスペースがあり、利用者は思い思いの場所でゆっくりと過ごすことができる。食堂側とリビング側の両方に窓があるため、外の様子や景色を眺められ、外のテラスにもすぐに出入りできるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳のところやソファ・食堂があり、利用者の希望の場所でそれぞれ過ごしてもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真や人形、造花、大正琴など本人の趣味や生活スタイルにあわせている。	
			(外部評価) ベッドとタンスとクローゼットと洗面台が備え付けてある。お位牌を持ち込んで、自宅にいた頃と同じように毎日拝むのを日課にしている利用者もおり、今までの習慣を継続できるように支援している。家族の写真や趣味の絵を飾るなど、好みのものを活かしながら居心地よい居室になるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室など大きく名前を書き認識しやすいようにしている。転倒しないよう安全な環境に努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873800373
法人名	有限会社清水商事
事業所名	グループホーム宇和ひまわり
所在地	西予市宇和町坂戸336-1
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者本位でしたい事をしてもらい、笑顔で過ごせるような対応に努めている。自然豊かな環境で静かでゆったりと過ごせる。散歩では季節を感じ楽しむことができる。買い物や外出を多く取り入れ利用者に楽しんでもらえるよう支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>宇和ののどかな田園地帯にある開設11年目を迎えた事業所である。開設当初から勤務する職員や勤務歴の長い職員が多く定着している。平屋建てでユニット間も気軽に行き来することができるため、利用者同士の交流もある。利用者の高齢化や重度化も年々見られるが、毎日笑顔ある生活を送ってもらいたいと、趣味の編み物や絵画を続けられるように支援したり、利用者の使用するコップなどの食器類は一緒に店に行き利用者を選んでもらうなど、普段から利用者の思いや自己決定を大切にしている。職員は利用者一人ひとりに合わせて利用者主体のケアを行っており、利用者は安心した穏やかな表情で過ごされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム宇和ひまわり

(ユニット名) B棟

記入者(管理者)
氏名 土居 ひとみ

評価完了日 25 年 10 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑顔ある生活」と理念や指針を目につくように貼り付け意識付けをし、笑って生活出来るよう係わりをもちコミュニケーションを図っている。	
			(外部評価) 「笑顔ある生活」を利用者に送ってもらえるようにという理念は、職員全員で話し合い作成している。管理者は利用者に笑顔ある生活を送ってもらうにはどうすればよいかを日頃から職員に伝え、職員一人ひとりが考え実践につながるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方への挨拶や声かけをしている。地域の行事の参加や、保育園、婦人会の方の来訪も定期的であり、交流をしている。	
			(外部評価) 地域の夏祭りや文化祭に参加したり、散歩時に職員から地域住民にあいさつや声かけをするなど地域と積極的に関わっている。毎月、地域の保育園児やボランティアが事業所に来て利用者と交流を深めている。事業所前の道路は通学路になっており、リビングからは登下校の子供たちを見守ることができ、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 外出やボランティアの受け入れなどを通じ、理解してもらうよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の会議で参加者との意見を参考にしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、市担当者、老人クラブ会長、市議会議員、他のグループホームの職員、代表者等の参加を得て開催している。会議では事業所の取組みや課題等を話し合っている。また、駐在所から災害時の注意点や対策の話に来てもらう工夫もしており、事業所としての課題など意見交換を行い災害対策に活かしている。</p>	会議を避難訓練や行事と一緒に開催する工夫をし活発に意見交換が行われているが、より一層地域に密着した情報交換が行えるように、地域包括支援センターへの働きかけを継続して行い、少しずつでも関わりが持てるような取組みを期待したい。また、地域住民と一緒に避難訓練や災害時について話し合うなど、地域との災害時の協力体制が強化できるように運営推進会議を活用していくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議に参加してもらい、意見や資料などの提供をしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議の出席のほかにも、日頃から事業所の相談をしたり、研修案内をもらう参加するなど連携を図りながら良好な協力関係を築いている。地域包括支援センターと関わりが持てるように運営推進会議の参加を依頼するなど、事業所から働きかけを行っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 職員会議で話し合いをし、言葉使いなど声かけに注意し心がけていくようにしている。玄関は開いたら音がでるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 玄関は夜間のみ施錠し、日中は開放している。職員は利用者の行動を見守りながら不穏状態が見られる利用者にはさりげなく寄り添い、自由で安全な暮らしを支援している。身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、安全面から家族の希望でベッド柵を使用することもあり、話し合いを重ねた上で慎重に対応し、経過観察を行いながら常態化しないように努めている。また、言葉での拘束も職員同士で注意し合い、利用者の立場に立った声かけや対応するように心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月1回の会議や研修の報告など行い、職員がそれぞれ注意し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修の参加、報告をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明をし、不安や疑問点を尋ね、理解や納得ができるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた時に意見が言いやすいよう近況報告やケアプランの説明などし、意見を求めている。 (外部評価) 家族の訪問時には職員から声をかけ、意見や要望を言いやすいように配慮している。遠方の家族には毎月手紙で利用者の様子を伝えたり、電話連絡をしている。年に2回家族会を実施しており、家族との意見交換や家族間の交流の場となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にリーダー会議を行ったり、月1回の会議で相談したり意見を聞くようにしている。	
			(外部評価) 管理者は日頃から職員と一緒に働いているため、職員は意見や要望を伝えやすい環境にある。管理者とユニットリーダーは職員にとって働きやすい職場となるように、細やかに職員の声を聞くように努めている。代表者は運営推進会議の参加するなど、事業所に来て管理者と話す機会もあり、管理者は職員の意見なども伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者に報告している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の参加を促す。会議で研修報告を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設からの運営推進会議の参加や行事に参加させてもらって交流をし、質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に家族・本人に希望を聞いている。声かけに工夫しながら、話をよく聞き、関係づくりをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 状況を把握し、家族の要望に応えられるように努めている。日頃より不安感を与えないようコミュニケーションを図っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族・本人と充分話しをし対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる事をしてもらい、出来るだけ係わりを持ちながらコミュニケーションをとり支えながら生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月手紙で近況を知らせたり、連絡をとって報告したりしている。家族会などで話を聞くようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の家族・知人など、いつでも面会に来ていただけるよう心がけ、利用者が電話したい時は利利用できるよう支援している。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、家族の協力を得て馴染みの美容室やお墓参りに出かけている。昔からの知人の訪問もあり職員は事業所に訪れやすいように対応にも配慮し、馴染みの人間関係が途切れることなく継続できるように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一緒に出来る体操やボール遊びなどのレクリエーションで楽しんでもらえるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約後も相談などあれば対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人や家族との係わりの中で意向や希望を聞くように努めている。生活歴などの情報は用紙に記入し、引継ぎをし会議で話し合いをしている。	
			(外部評価) 日頃から利用者との会話を大切にし、「どのような暮らしをしたいか」を考え、生活歴や意向を確認し支援している。毎日の習慣や好きな音楽など利用者一人ひとりの人物像を把握するように取り組んでおり、知り得た情報はシートに記録して職員間で共有し、順次追加をしている。思いや意向を表わしにくい利用者には、家族からの情報や表情や動作からくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族から聞き取りを行うことで生活歴など把握し職員全員が共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェックを毎日行っている。自分のできる事や好きな事をしてもらうようにしている。本人が興味をもったものを声かけしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 介護計画作成時には利用者本人も含め家族と方と話し合い の時間をもちそれぞれの意向に則した介護計画を作成して いる。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員が原案を作成し、計画作成担当者と管 理者が確認している。利用者や家族の意見と担当者会議で の意見を反映し、利用者主体の介護計画になるように努め ている。毎月職員で話し合いモニタリングを行い、評価や 見直しをしている。また、利用者の現状に合った介護計画 になっているか確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践、結果、気づきなど個別記録に記 入している。また、毎月行っている会議で、話し合い、見 直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) その時々々の状況に応じ、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組むようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができ よう支援している	(自己評価) 避難訓練、地域の行事参加、保育園児との交流やボラン ティアの方に来てもらい、その人にあった地域資源ができ るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望を聞いて、納得できる医療をうけられる ように支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することがで き、継続している利用者が多い。職員が受診介助を行い、 受診内容は家族に詳しく報告し、安心につながっている。 また、職員は普段の利用者の状態を把握しており、少しで も異変があった場合は早めに病院受診をするように心がけ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員の気づきなど必要と思われる情報を提供し、適切 な看護を受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は洗濯物など必要物品を届ける。定期的に面会をし 病院関係者との情報交換や相談など良い関係づくりを行 うようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族と話し合い、医師と相談しながら方針を決めて いる。	
			(外部評価) 看取りの方針を入居時に利用者と家族に説明し理解を得て いる。現時点では看取り支援は行っていない。利用者の状 態の変化があった場合には、その都度利用者や家族、医師 と話し合いながら意向を確認し、入院など適切な対応を検 討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修参加・報告を行っている。緊急時のマニュアルを作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署の職員によって避難訓練を行っている。運営推進会議では、共に消防署の指導を受けている。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。訓練では職員数が少ない夜間を想定して実際に利用者の避難誘導を行い、消防署からアドバイスを受けている。利用者の確実な避難方法の課題や反省点を話し合っている。運営推進会議の開催時に地域の駐在所から、地震や火災時の注意点や災害対策の話に来てもらうなど、職員の災害に対する意識を高めている。備蓄品については量や保管場所を検討している。	様々な災害等を想定して避難訓練を重ねているが、夜間など職員だけの避難誘導には限界があるため、地域住民が負担に感じないような具体的な役割の協力を依頼するなど、地域との協力体制を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個別性を重視し、自由にしてもらえるよう対応に努めている。トイレ誘導時は言葉掛けや対応に気をつけている。 (外部評価) 日頃から尊厳の気持ちを持って、利用者一人ひとりの人格を尊重したケアを行っている。名前の呼び方も基本は敬称だが、昔からの呼び方での声かけを利用者が望み、コミュニケーションが取れやすい場合は随時家族と相談して対応している。利用者の羞恥心に配慮し、排泄介助時などにはあからさまな声かけはしないように気をつけさりげない対応を心がけている。また、職員は居室に無断で出入りしないよう、利用者に声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の活動意欲を触発するなど馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。本人の意思を聞いて決定してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人がしたい事を聞いて提供している。出来ない所を職員がフォローしながら一緒に行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の意向により一緒に買い物に行き服やスリッパ」など購入している。馴染みの美容院に行き、毛染めやパーマなど出来るよう支援している。衣替えをし季節にあった衣服をきてもらうようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と共に食材切りや盛り付けなどしてもらっている。月2回お楽しみ献立日をつくり利用者に食べたい物を聞きメニューに取り入れている。	
			(外部評価) 献立は管理者が立て、月2回利用者の食べたい物を聞いて調理している。おせち料理などの季節の献立や、誕生日にはケーキを手作りするなど、利用者が食べることが楽しみになるように工夫をしている。キッチンが食堂に面したオープンキッチンとなっており、調理の下ごしらえや片付けなど利用者は一緒に手伝っている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分チェック表を活用して、少ない時には食間にとってもらうよう工夫している。一人ひとりに合わせて、食べやすい大きさにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声かけをし、チェックしている。義歯がきれいに磨けていない時は後で職員が磨くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し、個人のペースにあわせたトイレ誘導や声かけを行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄の時間やタイミングなどパターンを把握し、その日の状態にも配慮しながらできる限りトイレで排泄できるように取り組んでいる。入居時に紙パンツを使用していた利用者が、排泄パターンに合わせたトイレ誘導をすることで失敗が減り、布パンツになった事例もある。利用者の状態に合わせて、気持ち良くトイレで排泄できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表をつけている。薬の調整をしたり、自然排便を促すため牛乳や繊維質の食品を食べてもらうよう心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 無理強いしないような声かけをし誘導する。午前中にも対応する。入浴剤をいれてみるなど工夫する。入浴時、職員との会話を楽しんでもらう。	
			(外部評価) 1日おきを基本として入浴することができ、利用者の希望に応じて毎日入浴することもできる。利用者の重度化が進んでいるが、なるべく湯船に入って温まってもらいたいと考え、シャワーチェアの使用や職員2名体制で介助するなど、安全にゆっくりと入浴できるように支援をしている。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングに配慮し、気持ち良く入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中しんどい時は休息をとってもらったり、朝は無理に起こさず、その人にあわせ起きてもらう。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の確認をしている。医師・薬剤師に注意点など聞き、それを他の職員にも伝え、変化があれば医師に相談し、指示をあおぐようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとり日毎にしたい事など変化するため一つ一つ確認しながら、その人が今なにがしたいのかを理解しながら楽しく笑顔になるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩に行ったり、買い物に行ったりして外に出る機会をつくっている。地域の行事参加をしたり、月1回は外出の日をつくるようにしている。 (外部評価) 日頃から近くのスーパーへ買い物や散歩など外出している。月1回は車いすの利用者も全員で外食や花見に公園に出かけるなど外出できるように努めている。体調不良などにより外出できなかった利用者には後日改めて個別での外出支援をしている。また、家族の協力を得て利用者と家族が一緒に外出する行事を開催できるよう検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じ、買い物や受診の際、本人が支払いできるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて電話をかけたり、家族からの電話は本人とのかわり話をしてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夏はゴーヤや朝顔を植え緑のカーテンをしたり、冬はコタツを出し、好きな所で過ごしてもらっている。	
			(外部評価) 太陽光が入り明るいリビングにはゆったりとしたソファと畳のスペースがあり、利用者は思い思いの場所でゆっくりと過ごすことができる。食堂側とリビング側の両方に窓があるため、外の様子や景色を眺められ、外のテラスにもすぐに出入りできるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳の所やソファ・食堂があり、利用者の希望の場所でそれぞれ過ごしてもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真や人形、造花、大正琴など本人の趣味や生活スタイルにあわせている。	
			(外部評価) ベッドとタンスとクローゼットと洗面台が備え付けてある。お位牌を持ち込んで、自宅にいた頃と同じように毎日拝むのを日課にしている利用者もおり、今までの習慣を継続できるように支援している。家族の写真や趣味の絵を飾るなど、好みのものを活かしながら居心地よい居室になるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室など大きく名前を書き認識しやすいようにしている。転倒しないよう安全な環境にきをつけている。	